

# 日華連 会報

中會社東京支店

## 第126号



## 第10回 時代を彩るいけばな 百花繚乱展



## 一般社団法人日本華道連盟

東京都新宿区百人町2-18-20 ☎03-3369-3769

発行人 塚越 応 鐘

編集人 渡邊 華 鳳

平成27年度

(一社)日本華道連盟

# 総会並びに新年会

## 総 会

井口理香副理事長の司会により開催された。「幸せの花が咲きますように。花の芽が出てめでたいと思います。理事長のもと日華連で頑張ります。」と、井口先生の開催の言葉があった。

年頭の挨拶は塚越応鐘理事長から、「あけましておめでとうございませう。新宿のパークタワー会場で華展が行われたということは昨年の大ヒットです。そして今年もすでに決まっています。大成功で



▶塚越応鐘理事長 挨拶



▲井口理香副理事長 挨拶

終わることを願っています。五十年間に向かって目標をもって行いたいと思います。ワールドカップも世界九位。目標を持つと頑張れます。お弟子あつての先生なので自分が勉強しなければならぬ。国民文化祭も三十回が鹿児島県、三十一回が愛知県に決まりました。中曽根先生が総理の時に始まったので、これからもずっと続くように願います。本年も素晴らしい年になりますことを祈念して私の挨拶といたします。」とのことお言葉があった。

次の名誉会長中曽根先生の秘書の上屋勝哉氏からは以下のようなお言葉をいただいた。「中曽根は

アメリカ、エクアドル、メキシコに回り来週帰ります。皆様にくれぐれもよろしくとのこと。伊勢神宮や出雲大社等式典がありました。日本人の1割が参拝しています。日本の伝統文化、日本人の考え方にスポットをあてる番組が増しています。若い人が日本の伝統に目を向ける時間を増やしてい

▼中曽根弘文先生秘書 上屋勝哉様



▲岡野企画部長

けるように頑張りたい。皆様にご指導いただきながら頑張っています。」

本年度役員改選により新役員決定

平成二十七年

一般社団法人 日本華道連盟

役員名簿

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 名譽会長        | 中曽根弘文       |
| 名譽顧問        | 中曽根康弘       |
| 相談役         | 長田 鳳秀 高田 秀山 |
| 理事長         | 塚越 応鐘       |
| 副理事長        | 矢部 清華 武井 美恵 |
| 井口 理香       |             |
| 常任理事        | 渡邊 華風 鶴飼理久美 |
| 佐藤寿美華 岡野闘華齋 |             |
| 理事          | 加辺 成久 熊谷 幸遊 |
| 羽鳥 応友 熊谷 幸遊 |             |
| 武井 美陸 長田 華鳳 |             |
| 監事          | 小原澤応菁 長田 華鳳 |
| 山崎 淡葉 竹下 応芽 |             |
| 鈴木 景山 近藤 昭月 |             |
| 吉澤 一和       |             |
| 平成二十七年      |             |
| 一般社団法人      | 日本華道連盟      |
| 本部役員・事務担当   |             |
| 理事長         | 塚越 応鐘       |
| 副理事長        | 矢部 清華 武井 美恵 |
| 井口 理香       |             |



▲武井副理事長  
閉会のことば

▼竹下会計監査



▲加辺会計部長

|      |       |
|------|-------|
| 事務局長 | 長田 華鳳 |
| 庶務   | 鶴飼理久美 |
| 会計   | 加辺 成久 |
| 企画   | 岡野闘華齋 |
| 渉外   | 佐藤寿美華 |
| 記録   | 山崎 若原 |
| 広報   | 武井 美睦 |
|      | 渡邊 華鳳 |
|      | 熊谷 幸遊 |
|      | 羽鳥 応友 |
|      | 山崎 応裕 |

副理事長挨拶

古流香和会家元 井口理香

新年会

昭和四十三年、日本華道連盟を設立するに当たって、塚越応環本連盟初代理事長を中心に数回に亘る設立準備会合を経て次のことが考えられた模様です。

- 一、本格的な全国組織の団体にすること。
- 二、あらゆる流派を尊重すること。
- 三、中央集権的な色彩をなくすこと。

役員構成に当たっては、中央と地方のバランスに留意。以上が本連盟の基本的な性格ですが、現在もこの精神は生かされ、「和」と「平等」を旗印に、極めて民主的に運営されております。(元相談役の洗心古流家元田中一峰先生より発足四十周年式典時に活用させていただいた先生の手許資料より抜粋) 私共も、昭和五十九年十月二十一日(日)〜二十六日(金)京王プラザホテル(プラザナード)の第十五回日本華道連盟展より古流香和会として初参加。

事務長という役職も私には荷が重たかったのですが、塚越応環理事長ほか役員の皆様を支えていただき、能力不足を補って余りあ

るご助力とご協力に甘えて現在に至っております。そんな未熟者の私です。この度の大役は早いものではと思いつつも、副理事長という役職を拝命しました。微力ながらも基本精神に則り、本連盟の発展に貢献できるように務めていく所存です。三年後には五十周年という節目を迎えます。昨今の諸事情の変化により難しい時代の今、本連盟が担うべき使命は何なのか? 真剣に考え、現状の打破に向けて我々役員一同が心を一つに今まで以上に協力し合い、一生懸命に運営に専念して参らなければと思っております。先日、竹工芸家で四代目の田辺竹雲齋氏がテレビの特集番組で、「伝統とは挑戦であり革新」であると言っておりました。つまり、技をそのまんま引き継ぐのではなく新しく創造する。伝統は刻一刻進化するからこそ正しく伝承し、伝えていかなければならない。日本の伝統文化「いけばな」も同様に正しく継承すると共に進化していかなければと心新たにしました。一般社団法人日本華道連盟に栄光あれ!

総会後、午後一時から本年度常任理事に就任された、岡野闘華齋先生の司会で、新年会が開会しました。

まず始めに、本年度副理事長に就任された、井口理香先生から、「日本の伝統文化、誇るべきいけばなを発展させるために、理事、役員の方々と、塚越理事長の下少しでも前に進みたいと考えております。それには、皆様のご協力が必要でしょうにもなりません。花咲き誇る、それぞれの流派が、芽が出るように、めでたいめでたい一年になりますよう、お願いいたします。」と開会の挨拶をいただきました。

続いて、塚越応環理事長の挨拶では、「私は、高崎華道協会に属しています。そちらで三月に「おやじいけ花展」をします。高崎市民いけばな展を同時開催しますが、その中の一環で「キッズいけばな」

▼日本花卉新聞  
田村光様



もしております。小さい子供達が一生懸命、楽しそうに生ける姿は、将来期待できるのではないかと思えます。また、身近な「おやし」にいけ花をしてもらい、興味を持ってもらって、女性の世界に男性が関わるのも非常に良い事で、募集をかけた。男性だからと言って、花に関心がないわけではなく、いけ花に関心を持つと、何故いけ花を一生懸命やっているのかなと理解を示してくれるという事です。それでは、今年もよろしくお願いします。」新しい挑戦への話に皆、耳を傾けました。

名誉顧問の中曽根康弘様より、祝電披露の後、日本花卉新聞の田村光様から祝辞をいただきました。「二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピックはスポーツの祭典であることは言うまでもないですが、もうひとつ、開催国の歴史や文化が各国のメディアを通して全世界で紹介される文化の側面を持つています。日本の文化が世界中で紹介されるという大きなチャンスではないかと思っております。では、日本の文化は何であるかと考えた時、やはり「おもてなし」ではないかと思えます。おもてなしの文化の極みは何かというと、やはり「いけ花」が出てこな



▶長田事務局長 乾杯

ければならないと思っております。今いけ花は、オリンピック・パラリンピックに出来るだけ多く関わらせたいというプロジェクトが動き始めております。団体・所属は関係なく、いけ花を志す人々が目的を共有し、業界が一つとなって取り組む事が何より大切と語っております。開会式の際に満席のメイン会場の真ん中でいけ花を生ける姿：そうした光景を夢に抱きながら、私自身これから先その実現に向けて、些かではございますが努力して参りたいと思っております。どうぞ皆さん、その実現に向けて前進しましょう。」と激励の言葉を頂戴いたしました。



◀日本クラウン 八木春子様



会場風景

その後、事務局長に就任された長田華鳳先生から「今年は羊年です。十二支では未来の未と書きます。日本の未来、栄えある未来を考えながら、この新年を楽しく過ごしたいと思えます。乾杯！」のご発声後、会場は団欒の場となりました。

今年の余興は、日本クラウンの八木春子様をお招きしました。

先生は、静岡県裾野市出身の歌手であり、また浪曲師でもあります。「日華連の皆さま、明けましておめでとうございます。日本の伝統文化でありますいけ花。人の心を癒し、また色々な表現をするという意味では、演歌や歌謡曲に相通じるものがあると思います。芸の道というと、私達の歌の道もなかなか厳しいです」と言うのは



▲長田事務局長 閉会のことば

修業が何年もかかります。その修業に耐えないと一人前にはなれません。」こんな厳しい中で、女性の浪曲師でやっと一人前になられた努力家の素敵な方です。

一曲めは東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」。二曲めは、「富士山裾野慕情」。三曲めは、「風は南から」。四曲めは、渡邊華鳳先生にタイトルを書いていただいた「浪曲一代おんな節」。五曲めは「関東一本締め」。次々と軽快に客席まで出てきてくださり楽しませていただきました。アンコールには、自宅の目の前の富士山に元氣付けられ、励まされるという事を歌にした、ご自身作詞作曲の「艶歌華街道」。さすがに、浪曲で鍛えられた声量と技量に、皆さん魅せられた一時でした。

最後に、長田華鳳事務局長から日華連ホームページに皆さんの情報を送っていただきたいとの依頼があり、引き続き日華連の今後益々の栄栄を願ひ、三本締めで、会は終了いたしました。

## ごあいさつ

常任理事 佐藤 寿美華



華道を始めて五十四年、それは長くも短くも思えます。

昭和四十七年に日本華道連盟に入り、小田急百貨店での華展に両親が感激したことが忘れられず、子供を育てながら華道に励みました。その子供も、今や子供を持つ親になり、その子供が華展に出品する。なんと幸せな人生であろうと思う矢先、大切な夫の死。癌というおそろしい病に、あつという間に命を奪われてしまいました。とてもつらく、悲しく、涙が止まらず、朝晩泣きました。花を見る事も、手にする事も出来ず、華展がきてしまいました。

主人の好きなリンドゴの木。心中で泣きながら生けました。白い花びらが主人の涙のようにヒラヒラと落ちてしまい、華展にはふさわしくない淋しい、わびしい花になってしまいました。しかし、五十日過ぎたなら新たな気持ちで華道に専念しようと思えます。

日本華道連盟も新しい役員でのスタートに期待し、私も頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 古展花について

常任理事 加辺 成久



平成五年に日本華道連盟に入会をして二十二年がたち、企画會計部長と大任の役をおおせつかりました。理事長の元大先輩の先生方にお導きいただきましてここまで来ました。ありがとうございます。

また、国民文化祭に参加して日本全国を回り、花をいけながら各地を観光した事。これも日華連には感謝しております。日華連の華展においても、会員の皆様方との交流が出来て花の事、近況、またお客様の話など楽しいひとときを過ごし私には貴重な経験でした。我が当流は古展花として格花

を主体としています。先代から続くわが国の花として継承していく責任が重くのしかかって来ます。現代の家屋は床の間、畳、襖、障子などが無い家となり、古展花の飾る場所がなく残念であります。私達は日華連、群馬県展、高崎市華展、花華展と格花一本に微力ながら出版しており、多くの方々に見ていただく事に力を入れております。

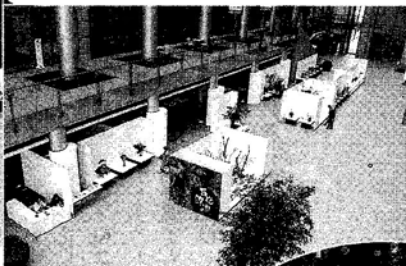
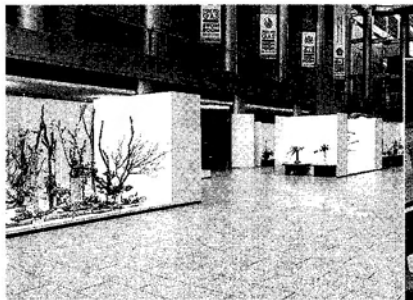
また、五節句という生活とかかわりのある花が生けられ、一月の松、三月の桃の節句、五月の菖蒲の節句、七月の七夕、九月の重陽の節句の菊とありますが、そのような行事が少なくなり残念に思われます。現在は格花の材料も昔から比べると数が少なく仕入れにも大変な苦労があります。格花いけは枝作りには技がありますので、研究会などで勉強して若い人達にも格花の魅力が伝えられるよう頑張っていきたいと思っております。

第10回 時代を彩るいけばな

# 百花繚乱展

4月10日(金)～13日(月)

2015年4月10日(金)～13日(月)まで会場、新宿パークタワーギャラリーにおいて「時代を彩るいけばな百花繚乱展」が後援文化庁、(株)日本女性新聞社のもとで開催された。昨年とは会場の様子も変わり広々とした空間に各流の先生方の大作、お弟子による作品と年々技術も上り素晴らしい花でうめつくされた。



## 作 品



理事長 塚越 応鐘



## 会場 風景



副理事長 井口 理香



副理事長 武井 美恵

作 品



常任理事 佐藤寿美華



常任理事 渡邊 華風



理事 長田 華鳳



常任理事 加辺 成久



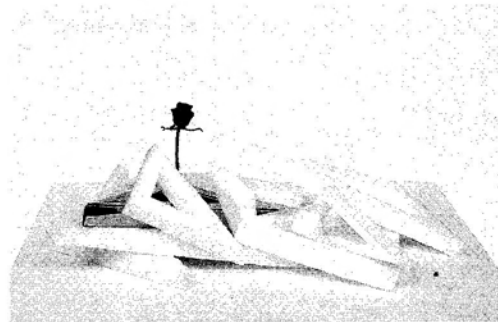
常任理事 岡野闘華齋



常任理事 鶴飼理久美



理事 羽鳥 応友



理事 熊谷 華遊

作 品

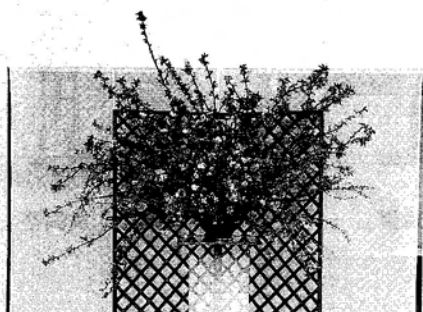


理事 小原澤応善



理事 武井 美睦

団体流派席



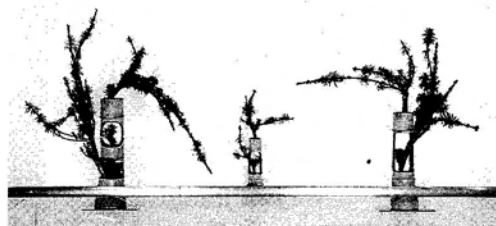
いけばな松風



理事 秋元 華穂



翠月古流



古流香和会



第10回「時代を彩る

いけばな百花繚乱展」

いけばな松風 長谷川応柚

平成二十七年四月十日(金) 四月十三日(月)、時代を彩るいけばな百花繚乱展が、昨年に続き、東京・新宿パークタワーギャラリーにおいて開催されました。今回は前期(二日間)後期(二日間)に分かれ、会期を通じておよそ一六〇作品の出演です。

例年より早く咲いた桜が散った新宿、さらに会期中は冬を思わせるような雨降りの寒い日もありますが、会場だけは「春爛漫」の空間でした。

流派席などの大型のスペースは、四日間を通しての展示でしたので、日々表情の変わる花々の姿を楽しむことができました。

自由花コーナーの中心ステージに展示されたいけばな松風・塚越応鐘家元の作品は、大壺に蕾をふくらませたベニキリシマ。大きく枝を伸ばし、まるで自然の中に佇んでいるような力強さ。日ごとに花開いていく様子に生命力を感じたものです。

会期中、三時間ほど受付もいた

しましたが、来場者から「素敵な空間でした」「花を見ていたら、作者の先生がお声をかけてくれて、どんな想いをもって、どう工夫して生けたかなどをお話いただき機会にも恵まれ、貴重な経験をしました」などと声をかけていただき、多くの先生方が生けた花々のいのちが、見る人の心に響いていると嬉しく思いました。

ひとつの流派ではなしえない、花々の可能性をたくさんの方々に観ていただくことができる。それが日本華道連盟の花展なのだと、改めて感じました。

日華展を終えて

古流香和会 大木 理裕

新宿パークタワーに移って二回目の華展でした。今年はレイアウトもすっきりして広々とした空間を生かした「伸びやかで明るい華展」のイメージが定着してきたと感じました。受付で見に来て下さった方だけでなく通りかかった方からも「素晴らしいですね!」とお誉めの言葉を頂きました。これまでの役員先生方の並々ならぬご苦勞の賜物と深く感じ入りまし

た。特に今年是不順な天候に加え、JRが止まる事態も発生し、会を運営されてきた役員方のご心労はいかばかりだったかと頭が下がります。そして、会場を美しく晴れやかなお花で満たして下さった会員皆様の熱意と力強さには乾杯です。素敵な華展をありがとうございました。

私事ですが日華展では毎回お勉強をさせていただいております。花材はお家元が選んで下さるので、その時々で性質も異なる材料を前に悪戦苦闘します。何とか完成させて展示できるのは、やはりお家元の力添えがあつてのことと感謝いたしております。最後にお世話になりました役員先生方にお礼申し上げます、今後の日華展の発展をお祈り申し上げます。

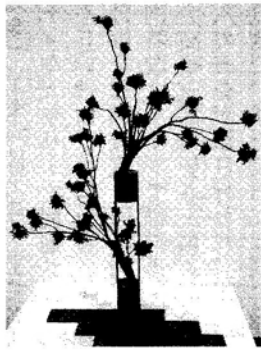
百花繚乱展に参加して

都古流美和会 青木 美青

第十回時代を彩るいけばな百花繚乱展が四月十日から四日間、昨年と同様の新宿パークタワーギャラリーにて行われました。

今年には異常な気象の変化があり九日の活け込みの当日も大分気温

が低めで、けれど花材運搬には好条件でした。花材置き場にて荷解きをし花展会場に入ると、パツと明るく広々とした空間に整然と花席が設けられて、そこに緊張しつつA席に格花を活け込みました。会場のレイアウトは昨年と異なり一階のみ平面に変化をつけた花席が、觀賞される方々にとつても良かったのではないのでしょうか。時間内に活け上げた作品がまた季節感一杯の立派な作品に仕上がりました。銘を受け、格花のコーナーではふつと樹木の香りに癒されました。また現代花コーナーは花々の美しい色彩と香りのハーモニーが心良くマッチして、さすが日々活け花人として精進を重ねておられた先生方の力作に、目を見張る思いでした。天候不順の四日間ではありましたが、大勢の来場者があつた事を伺い、理事先生をはじめ諸先生方、またギャラリーのスタッフの皆様のご苦勞に感謝しつつ会場を後にいたしました。



▲青木美青先生作品

### 第10回「時代を彩る

### いけばな百花繚乱展」

翠月古流 勝間田華和

新宿パークタワーにて、四月十日から十三日まで四日間華展が開催され私も参加させていただきました。都内の広い場所での会場づくり等委員の皆様におかれましては、大変でお疲れ様でしたと感謝申し上げます。

私は前期での出品でした。上手に生けられるかしら、時間内にできるかしらと心配しましたが、なんとか二重筒にクジャクヒバとシヤクヤクを生けることができました。とても緊張した時間でしたが生け終わると自分なりに満足感を味わうことができ嬉しく思いました。皆様の作品を拝見する中で、



▶勝間田華和先生作品

花や木が、それぞれの花器に生かされ、素材さ、可憐さをみごとに引き出されていることに感銘しました。同じ花材を使っている人も、生ける人により表情は変わるんだなと味わい深く拝見しました。また、お一人お一人の意気込みが感じられた、みごとな作品ばかりで流派を越えとても勉強になりました。

### 第10回時代を彩る

### いけばな百花繚乱展に

### 出品させて頂いて

翠月古流 加藤 華久

四月十日から十三日に新宿パークタワーで開催された日本華道連盟の華道展に出品いたしました。

東京の中心、新宿のビルのギャラリイという広く、また洗練された素晴らしい会場でお花を生けることが出来、感激しました。今回は、自由花でしたので、それぞれの流派の特徴が出た作品の数々に、圧倒されました。

会場で気付いたことは、若い方と外国人の方のお客が多かったということ。私はストレッチャーの立ち生けを薄端で生けました。若いお客様が足を止めてくれ

▶加藤華久先生作品



うれしかったです。これからの日華連の華展の将来を感じ、発展を確信しました。多くの先生方にお世話になりました。本当にありがとうございます。



### 第46回

### 高崎市華道協会いけばな展

塚越 応鐘

高崎市華道協会いけばな展・高崎市民いけばな展が三月十三日

(金)十六日(月)まで高崎シティギャラリイで開催された。おやじいけばな体験教室・キッズいけばな体験教室を同時開催、会場内特設ステージでは群馬・三曲協会高崎支部の皆さんによる箏・尺八の演奏が毎日行われ、賑わいを見せた。また初日には同じ建物のコアホールにおいて高崎市主催の「夢奏人 DREAMS」竹内千尋ヴァイオリンリサイタルが開催され、塚越応鐘によるスペシャルコラボレーションが行われた。テーマは「花」。花にちなんだ楽曲に合わせ、幅四メートルの桜の大作を実演、いけばな展との相乗効果もあり多くの人たちに楽しんでいただいた。

忙しい四日間だったが、花展が



▲好評だったおやじいけばな体験教室

シテイギャラリーに移ってから六年、入場者も過去最高を記録。今後の日華展の良い参考となるだろう。



▲定着してきたキッズいけばな体験教室

### 華アート2015

2月6日(金)～11日(水)

「華匠の会」主宰 長田 華鳳

横浜山手芸術祭参加、今回は場所を外交官の家に移し開催しました。外交官の家は国指定の重要文化財のために場所に多くの制約がありました。重厚感のある建築物をいかに飾るかという、いけば



▲毎日、箏と尺八の生演奏が何とも贅沢

な基本であります空間芸術の咀嚼を大いに考えさせられました。参加者はそれぞれ工夫をして素晴らしいアート展になりました。

私の作品は、バレントインにちなんで、プレゼントを開けたら花の妖精が飛び出した。というもので、好評を得て十五日まで延長して会場を彩りました。

参加者のうち、日華連の会員は私と大澤一煌氏と上原瑞

◀長田華鳳先生作品



光氏でした。

いけばな芸術を考えたとき、どうしても流派の型を考えてしまうのはやむを得ないことでしょうが、元来の空間芸術という忘れないための勉強の場と考えています。興味のある方は、自由な会ですので、いつでもご連絡ご相談ください。

今回は、吉田茂郎での野外アートを実施します。次号でご報告いたします。



▲上原瑞光先生作品



▲大澤一煌先生作品

### 藤沢市

### ワクワク体験ひろば

2月28日(土)・3月1日(日)

長田 華鳳

二月二十八日・三月一日の二日に渡り、藤沢市と藤沢市文化団体連合会(会長・長田華鳳)共催で「ワクワク体験ひろば」が開催されました。これは、伝統文化を多くの人に知ってもらいたいという目的を実行するに当たり、行政と文団連が二人三脚で昨年より始めたものです。

一日目は晴天に恵まれましたが、二日目は土砂降りという悪天候に見舞われてしまいました。天

候の悪さに関係なく、二日間の体験受講者は一一八二名を数えました。いけばなの部では、最初の予想を大きく上回る二四四名になり、役員をはじめ協力してくれている花屋さんもてんこ舞いのうれしい悲鳴でした。

企画段階から、先生が上から目



▲真剣な参加者

▼ワクワク体験ひろば  
長田、鈴木市長、参加者



線で教えるという態度は封印して、参加者に楽しい出を出をということを徹底して準備しました。参加団体の全てが一致団結した結果、当初の予想をはるかに上回る参加者を集めることができたと思負しています。地域の代表的パートナーである、さいか屋藤沢店の協力で、シールラリーの開催もしました。これは、五か所以上の体験者に豪華なデイズニー賞品を出すという企画で、賞品が足りなくなるといふ大成功でした。

伝統文化が衰退の一途をたどる

今号にもたくさんのご投稿をいただきありがとうございます。本年度、本部では役職の一部交代がございました。新メンバーでもまだ頑張ってます。

総会、新年会に始まり、百花繚

編集後記

現在、私たち伝統文化の継承者が行政の協力を仰ぎながら、自らも積極的に活動していくことの重要性を改めて感じました。

乱展では大作席も設けられ、趣の変わった素晴らしい華展となりました。これも日華連の皆さまのご協力のお陰と感謝申し上げます。

また、長年参加して参りました国民文化祭（鹿児島）が今年もちまして最後になるかもしれません。が、奮ってご参加いただき有終の美を飾りましょう。次号にも皆様のご活躍の原稿をお待ちいたしております。

記録広報部 渡邊 華鳳  
武井 美睦

報 告  
翠月古流副家元  
秋元華穂先生  
ご逝去

桜も散り次から次へと花々の咲き競う頃となりました。私事ですがこの度理事にさせていただきました当流副家元の秋元華穂が帰らぬ人となりました。一月二十八日早朝皆の見守る中で息を引き取りました。全てをやり終えた安らかな眠りにつき、癌と闘いながら最後の「パリで逢った人」の出版をみとけながら逝きました。こうして書いておりますと涙があふれ出てきます。最後まで自分の力で歩き毎日看病する私にありがとうを繰り返して何回言ったことでしょうか。奇しくも夫と同じ四十八歳でした。二人の子供を残し心残りだったと思います。

今は私も東京中心に生活をしていきます。その間日華連の先生方には心からの励ましのことをばをいただき、理事長と共に多くの先生方のご参列をいただきました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。理事長のはからいでお花も出品することが出来ました。二人の子供達も思い思いの花を生けました。

十月十二日には秋元千穂追悼出版記念、そして翠月古流七十年、翠月学園五十周年の会を御殿場高原ホテルで催します。その節はまたよろしくお願いたします。

（翠月古流家元 渡邊 華鳳）